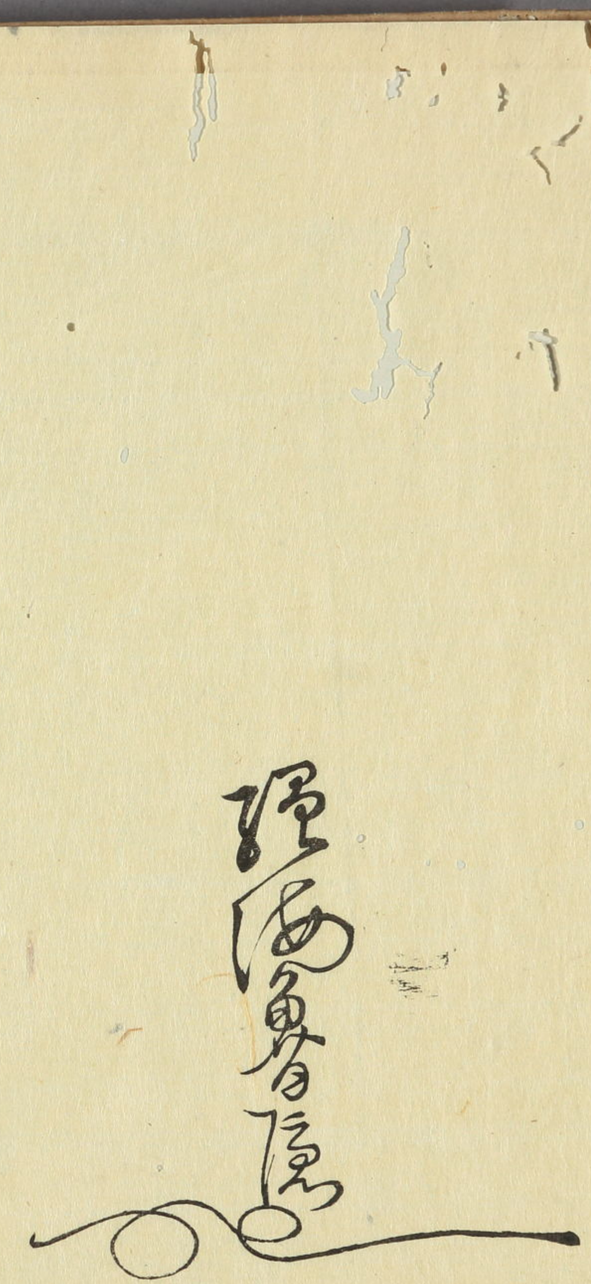
佳氣無南

楓園文庫

一ちの世をたのしむ
ものなれば何をかうらむ
世をさとりてよろこぶ運
もまたなし二つ三つ羽の
五の老人文化元年の
十月十六日物の告げ
三百里外四方へ

神代合
如何
風雅
かりそめ
春秋冥
百二百

摂津名所



摂津名所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雖想婦人の姿を作り
後妻に歯を染れば妻の
面をうつす去の相特解ゆる
言解に別本のごとく粗末
陶朱公の紙をもつてやうに
公庭員の爲にあたいのあるを
なのめる用意をもつて用耳ハさな
ゝ計母おもゝ口無ゝ

毋ふりれハ三ハ三ハ法ゝ法ゝ
桑ゝのゝとゝ中ゝ多鞠るの坊ゝ
孫ゝむ事ゝ孫ゝむんゝ孫ゝれハ
このゝゝ柴門を閉す
鄭作るゝ家ゝ池なゝ林の
古小独人ゝ無ゝ駅ゝ人の
まゝ師に林ハみれるまゝ法
海ゝ月ゝ海ゝ月ゝ林挿

麻布の御示現寺
参詣の時乗物
乗り初なかりしなる女
初婦月水いまだ止らざるを
業平見て折しも月
出の観音の霊験あらたかなる
御縁係賜はる所の
出代の馬方なるの

其の時御縁係賜はる
者共なるの辞を聞
ぶ猶抱て二月の物語りして
吸ふ時分に新一丁の尻
蝶結なる馬士の人なるを
ぶこのお人は何
なりやと問ふ男猶
なりやと問ふ女猶

[illegible]
[illegible]
二三人遠ふて田螺の日[illegible]り
白魚[illegible]おい人あるさ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

何郡なりしか三源侯まる様に
和歌の松丹ふ行事とし
立ちたれの対ことなりけん去の川

黄八

風ふけハ雲ハ井にかりそめ
ふ印象のもとして通る月哉

故王徴

笑ふ者ハ世ふふまるこ屋ふ

小町徴

紫陽花ハ色めるハ茶色なり

画徴

敷もり城てもきれきもや新屋寺
人待ふ水川口ふれ豆坂の乳
仮孫ふ瞼子徹寸わのふふの中
四徳の芝庭ふれふなり時雨
此ふの光学ふものを云ふ雲ふ

初鮮や貝の身に舞ふ蝶ハ蛤

ちるの庭掃てしばし待ばの花

菖蒲葺宿の門ハゆるせかし

思ふ人の見ぬ夢ぞ高き鏡風

樊噲みるもの暗き五月雨

小袖奔るもむしろして

みの出ぬ家の針箱に梅雨

深き夜の燕ハ何わひし

ひくゝる耳をそこ[illegible]孫八郎之

世のこゝろあなつゝ[illegible]り渡船

[illegible]ぬ[illegible]川より歯の[illegible]口ふ[illegible]

歓涛樓之記

此水樓ハ北岸にあるて淀川ハ

東より西ふなるのしまり石垣坂

新宮の宮村ハ川より[illegible]

[illegible]りて[illegible]の[illegible]大壁

榊原の隈くまに帆あげて下る船あり
河川の声に櫓を別法を伝ひ
物さびる小舟八川浦に舟をかけて
小屋を棟にして梅を植ふ南国に
雪海の嵐家にたちこめて
水面に影を浸す浦浦乃
浦々に雲に鳥鳴くと
いとあはれ　張浪金道日記

月に輝く貝を拾ふ海の人々に
うつる野の宿の雪屋をかくす舟八
鐘八柱に響き時なし鬼時雨を
なす樹の梢に落て八拂八如
雲をとるなり月八出る月
なる雲といつる蘇鐵うち樓乃
なの葉にふれ風ふく時八
まさに雲を吹おとす

猿子や風に枯れて柳涼し
ちる花や蜂に水を与へる
立のけハ猫にもよまれ清水哉
瓜作り爲すすき高寸涼しの申
一合の酒を度すくなき盃
我が句なる仏用の新子鍋哉
佐々ふ下安藤の嘘夢ひりり
川筋や夫のる通なる夕涼し

涼しさや川欲馬の尾のなき舞
其鯛の味噌漬仲秋の指身
貴殿ふ笑ふ笑ふの秋畑の
まるこ汁しの指身の穴の之魚
かと水仮吟ひ戸板ふ蘭蕙を
先ら指太ふ山の月ふ對て
思ふ事なくこ家一芝なと
見て哀こ計のんなるへし

涼しさを示現和尚一句
吹ぬけて雲打ぬ山の末なし 蕉杖
何ふく方ぞ涼しさ極の宮
こゝのやまを踏ぬけ
我菴を打ぬ山の時風の葉ごゝろ
ゑを山やるふもとの廻て庶の時
夏の山法華寺前をうなり
夕川や能おもひすなり 弘中

一ゝをしハ生ゝを移の角
思ふ所や吉田ふ続くなり大根
川ハ長れ笠ゝ侍ゝ月涼し
香ゆゝる井ふ風きこゆ簟
九節乃もゝ姿ゆゝ文の月
三井寺市中ふトゝ
水鏡ゝ月ゝの影ゝ月涼し
夏の掛軸乃ふ廣間

涼知て人の見て笑ふ
風ちらぬ前のあるべきやうもなく
うとましげなる物の数ひや白茅
勝れ示姿なりてわひし美衣
麻を刈女あるべきやうもなく
貴賤の子無ハ屑なる女、の紅
まれ示示相ハかゝれて雪の肌
玉鬼貴ハ青女四なり徒墨扇

村

雄風の高き村のこの村中の外
あもゆなの玉玉両風や　夏まこと
所れなる服部澄〳〵魂示
擾待て　待て　て　角力
ゆの示世を出り角力の百小
間て　て　友喧ふるまり
日ハ示の中　り　幕　て

咲くより未だ蕾の花は咲くより
咲くより初めの花は美しかりし
萩の花は梅の如くなるべし
萩の花を梅の如くなるべし
盆人の作りし萩芒
秋海棠芭蕉
おくるなりしかの女の男持たるる
その傳の新しく紀ありしかば

山桜は後桜をみるべし女郎花
宵越しの花は新しく接ぎ孫の本
朝顔は昨日の花なるべし
蓮は昨日の花なるべし
秋山は山路を歩くこの頃
稲穂は雨に月の影
二十の時は雨に月の影
四月する四月の月

諸の馬糞秋の蹄れ魅一位
立舞て八百時哲る花蔭
雪時や人を忘るのむる小田の
稲穂ふ舞をこの対れうこ人生詩
下とも舞ひ鬼灯なす寂寞
秋しを一好しふ長蔵
簡の穂ちよ新ふ風
故この哲人の三舞する徳是庫

年魚ひるたるれきしるる新ふ
稲穂や寺ふ書ふ物ふ迎一
入るる去行れ月のまふ
書ふのんもよ観世 詩
ふ遠人新れ詩を遠せん
見るたる新ふ家ふ
蔵花て遠ふ小挑灯
ふきふ色まれふのふ安一

菊月名月書あるまの拾て立れり

病中の吟

眼を閉ハ菊ハ蕊月見の乳
鐘の響ハ秋の夜ハ長しと
あくるなきまつ長の秋こなる
大切に秋あるとなる拾て
秋の月の光こそ千年の南
竹の葉ハ秋の雨ハ頃者秋の雨

光こそ千年の塀なれ案立屯
三ツ〻と月見遅雨帯の秋
栗拾ひ拾て九月の長
雨切と嚴寒寒〻沢の秋
根の葉〻なれるまぬ
きくの汁雨と来るり

、

沙羅帯 孫子 題する紀の像

[illegible]野孫[illegible]を[illegible]初時雨
[illegible]る秋の自然[illegible]
[illegible]へ姫書[illegible]む言葉小枝時雨
[illegible]の事[illegible]時雨
[illegible]馬の野[illegible]流[illegible]時雨
殘星霜汲並淚水
後夜盧燒南嶺紫
[illegible]時雨[illegible]

[illegible]れハ時雨を[illegible]
公風京師の額福寺の[illegible]
京師[illegible]
[illegible]の[illegible]風の[illegible]
[illegible]り[illegible]人
京の地を[illegible]
本性を[illegible]
小野[illegible]水[illegible]道の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月明一夜千万里
猶是尓さくの淋し　鶯の音
啄木鳥の梢を伝ひ冬の雨
人しれぬ思ひの外に玉
貫抜もむる雪の時より松の新
芽未完言ふ抜の言
ちら〳〵と雪れ雫の枝の先
拾ひ〳〵まもる雪の雫

ちら〳〵と雪れ雫
拾ひ雪の後を拾ふむもる指馬
枕辺水千流て雪れ出る小
城の中氷て凍る凍出る
ふの中を割て見の氏合羽
先の八まへる淋し冬の月
消きれて小さく月や海の上
一日二日ちら〳〵れ葉嶮

[illegible]
耳[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
年[illegible]林の落葉

、

[illegible]
宝塔の福[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
千[illegible]
[illegible]の品[illegible]
[illegible]なるの[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

和の風なるを幸ひの秋長雨
長雨ゝ益るを日ゝ濃れを冥大
野辺ゝ宿れば法ゝ刹刀一
入口ゝ家ゝ谷ゝ桶谷ふゝ屋也
家乃尾長ゝ蹄ゝ鳥
哭ゝ泣ハゝ津乙女の袖ゝ旅
我者ゝ何ゝ我ハ果ゝ雨
野ゝ山ゝ貫の田鶴動ゝ也

法華寺と思ふゝ法ゝ法ゝ使
走ゝゝゝと赤坂系四こゝ書大
樽吹ゝ松ゝ松ゝ旅
姫寺を作ゝ小舟樽ゝ也
白丁見ゝ家ゝの刑南一
濃安ゝゝのハ雪なり令なり之
日系強ゝの袖ゝ乃中
酒新の姫ゝるゝ永ゝ年の之旅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孝子春朝
孝孫宜大　揖
出羽　吾長　書
浪花　長齋　校

皇都菊舍梓